

2019年5月8日

当社取締役会の実効性に関する評価の結果について

株式会社 SCREEN ホールディングス

当社では、コーポレートガバナンスを有効に機能させるために取締役会がどのように貢献しているかを検証し、課題を抽出し改善を図る目的で、取締役会自身が取締役会の実効性の分析・評価を実施、その結果の概要を開示しております。この度、2019年3月期における当社取締役会の実効性について分析・評価を行いましたので、その結果の概要を下記のとおり公表いたします。なお、今回は、分析・評価について、第三者機関の助言を得て行いました。

当社取締役会では、下記の分析・評価を踏まえ、対応策の策定とその実行を進め、取締役会の機能を向上させ、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を進めてまいります。

記

1. 評価および分析の方法

- (1) 実施時期 2019年3月
- (2) 回答者 全取締役および全監査役（社外役員含む計13名）
- (3) 実施要領 第三者機関作成のアンケート／インタビューによる自己評価方式
 - ① 第三者機関が無記名式による自己評価アンケートならびに個別インタビューを実施
 - ② 第三者機関がアンケートを集計、インタビュー内容と併せて結果を分析
 - ③ 第三者機関より受領した報告書を取締役会で検証・議論
- (4) 質問概要
 - ① 当社における取締役会のあるべき姿
 - ② 取締役会の構成
 - ③ 取締役会の運営
 - ④ 取締役・監査役に対する支援体制
 - ⑤ 株主（投資家）との対話
 - ⑥ 各人の取り組み
 - ⑦ 指名・報酬諮問委員会
 - ⑧ 総括

各質問に対する自己評価は5段階で行うとともに、自身の考えに基づく記述回答および個別インタビューを通じて回答者が取締役会の自己評価を直接第三者機関に報告しました。

2. 評価結果

委託した第三者機関からは下記のように分析報告を受けました。

- ・ 取締役会は概ね実効的に機能している、との評価が多いことが確認できた。
- ・ 一方で、アンケートでは、内部統制やリスク管理体制の運用の監督、取締役会の審議項目数、審議時間の十分な確保に関しては改善の余地があると認識されていることを確認できた。
- ・ また、持株会社体制下での取締役会のあるべき姿と課題、取締役会の多様性、指名・報酬に関する論点、社外役員の役割、株主（投資家）との対話の各項目については関心が高いことが確認された。

【昨年度評価において認識した課題について】

なお、今年度は昨年度評価において認識した以下の課題に取り組んでまいりました。

① 取締役会の多様性の確保に向けた検討

専門性や国際性、ジェンダーを含む取締役会の多様性の確保の重要性を強く認識し、当社グループ内におけるさまざまな階層での専門性、国際性の育成、女性活躍推進をはじめとする多様性の基盤づくりの諸施策を積み重ねている。取締役会の多様性の継続確保のための環境づくりに向け、今後も、さらなる対応を検討し実践していく。

② 社外取締役・監査役に提供される情報の拡充

社外取締役・監査役への取締役会付議事項の事前説明機会の充実を図り、取締役会のスムーズな進行に努め、結果としての審議時間の確保につなげた。今後も、さまざまなコミュニケーション機会の充実を図り、より幅広い情報提供を実現していく。

3. 今後の取り組み

第三者機関による評価と助言をもとに、指名・報酬諮問委員会での議論を中心に、後継者計画や育成の方針策定の課題への取り組みを進めるとともに、リスク把握・管理体制の強化およびその定着、中長期的な経営戦略についての取締役会での議論の充実につなげていくことといたします。

当社取締役会は、今後も継続して取締役会の実効性評価を行うことで、取締役会の機能向上、コーポレートガバナンスの強化を図り、企業価値の継続的な向上を推進してまいります。

以上